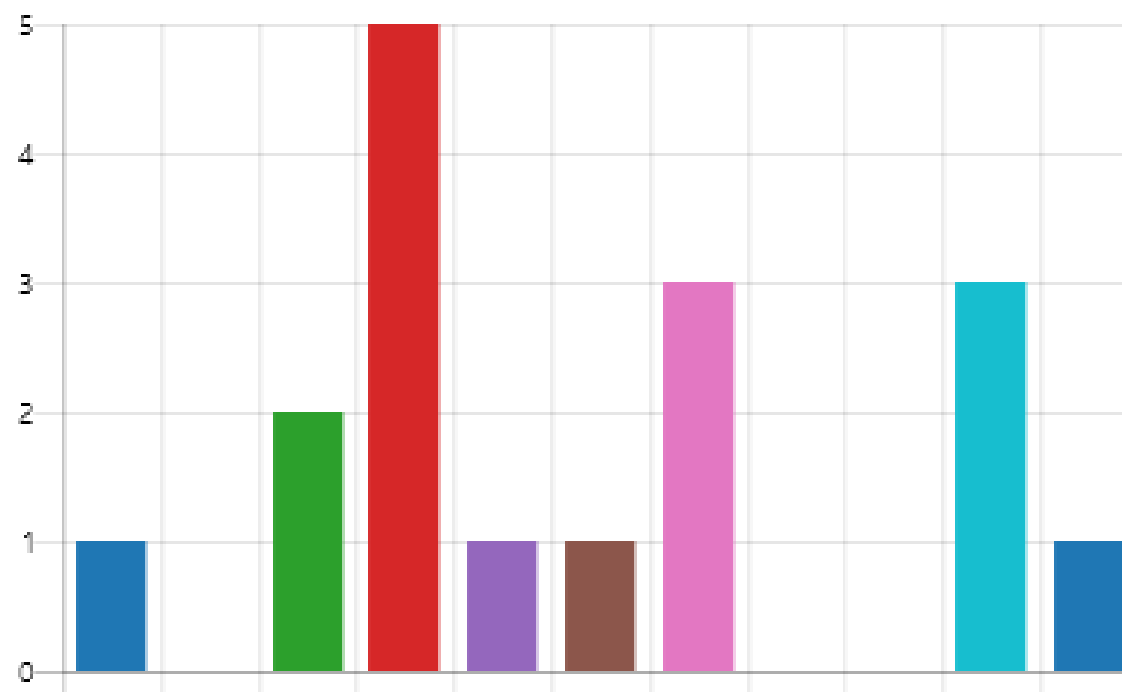


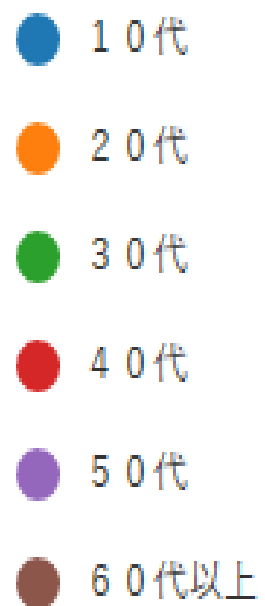
今後のSTEAM教育研究会SIGの展開 に関するアンケート調査

職業

教員（小学校）	1
教員（中学校）	0
教員（高校）	2
教員（大学）	5
教員（高等専門学校）	1
教員（専門学校）	1
会社員	3
公務員	0
自営業	0
学生	3
その他	1



年代



1

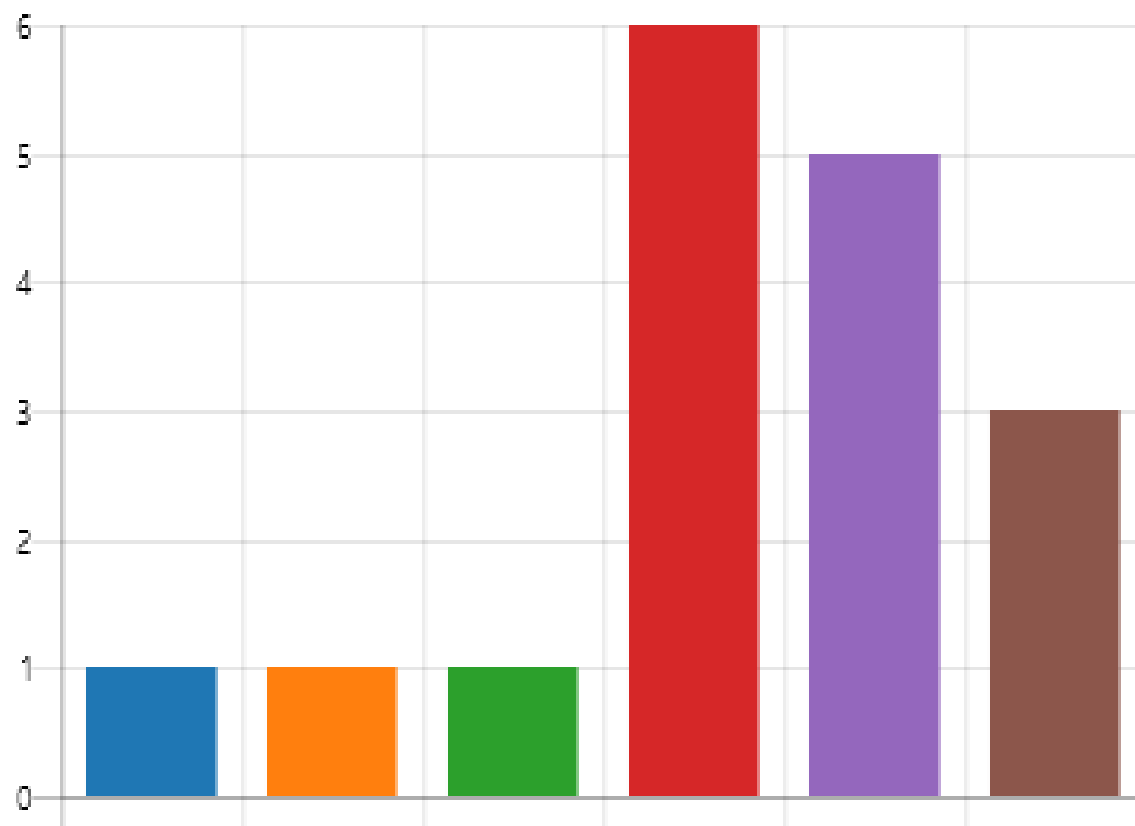
1

1

6

5

3



■新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う課題

オンライン授業関連

- 乳幼児教育でオンラインが可能か
- webによる教材づくりが煩雑、学生実験ができないので、教育効果に疑問
- 公共の教育の場が止まることによる教育格差。
- 対面学習による感染リスク（クラスター発生の可能性）
- 実験・実習や卒業研究をどうするか
- 生徒の学習・学力保障（授業、オンライン授業等）
- 学習評価
- （STEAM教育に限定）オンライン化を目指すのに受講者側のパソコン環境、通信、スキルに差が
- 遠隔授業での学生のモチベーション
- 遠隔教育のインフラやコンテンツが十分でなく、学生の納得感が得られるかが課題
- 従来学ぶべき内容の進度の遅れ
- 対面授業の再開ができるか

- 芸術、特に音楽という身体的動作を伴う芸術の伝承（教育）に関して
 - ・教員のオンラインレッスンに関するソフトウェア操作の技術的問題
 - ・教員の自宅の環境のPCスペック、ネット回線のインフラ的問題
- 登校時の安全確保
- 私立系の小中高と比べて、公教育が完全に遅れ
⇒教職員の利用者としてのITリテラシーの向上が急務

その他

- コミュニケーション力
- 直接のコミュニケーションが取れない状態のメンタルケア
- グループワークやフィールドワーク等、直接顔を合わせたり、外で行なっていた活動ができなくなった時にどのように進めていけばいいのか
- 子どもと大人の権利を守るためにはどのようにしたらよいか

■ 今後始める、始めようとしている取組

対話の場の設定

- NPO運営の中での会員との対話の会を設定
 - 第一回目：オンラインで乳幼児教育は可能か
 - 第二回目：子どもと大人の権利を守るためにはどのようにしたらよいか
 - 次回：オンラインでやったこと、やりたいこと、子どもに参加してほしいことを持ち寄る
- オープンな議論の場を設け、小さな対話の場から、それぞれが考えるきっかけづくりを
 - 【理由】 ・ できることは限られている
 - ・ ウィルスの性質上一番恐ろしいのが心理的隔離と不信の連鎖を生み出すこと
- オンライン読書会、オンラインワークショップ
- zoom、skype(Teams)、Google Meetなどを使ったワークショップや講座、Youtubeやブログを使った情報発信など

日常生活の見直し

- 普段してこなかった家で出来ることとは何かを考え発見し、取り組むことです
- 例えば、昔読んだ本をもう一度読んでみるや、普段は取り組まなかった細かい所まで清掃をするなど
- 友人と自分たちのスキルアップを兼ねて進めているゲーム制作と、通話しながらオンライン上でできるような遊びを考えたいと思っています
- NPO運営として、今までの事業（講座、レクチャー、海外現地研修など）はすべて事業の在り方を0から見直し、新たなNPOの存在意義を問うている。
 - ⇒ 主軸は乳幼児教育に置いた上で、教育/保護者/ARTなど分野をまたぐ方々が集うメンバーシップ制度をつくり、「次の教育を考える土壌を耕す」ことなど、小さいことから始める
- いろいろと懸念はあったとしてもまずはやってみること、が大事だと痛感

■ 今後始める、始めようとしている取組

オンライン授業関連

- Moodleを使った学生への連絡体制の整備
 - オンラインスクール（哲学対話、オンラインプログラミング、オンライン学童）
 - グループ活動等ができないか、CLIL授業はどうかなど、対面授業で実践していたものがオンライン授業でできるか、さまざま挑戦
 - 学習評価方法の検討：組織
 - オンライン体験会、授業
 - 遠隔授業
 - 教育用ネットコンテンツの収集
 - オンラインアプリの機能に当てはめる授業ではなく、学びに合わせた機能の活用
 - Microsoft365（主にTeams）による双方向のやりとりを並行活用した授業実践
- 会議ソフトを使用した授業
 - 個人：身体的動作を伴う芸術の伝承（教育）を可能にする具体的なアプリケーション/デバイスの開発
 - 校内での完全防止対策の内容、学力保障のカリキュラムの作成

■新たな教育のチャンスと思われるもの

オンライン授業関連

- オンライン導入は進んでいくと思うが、「学び」の本質が何であるかを考えた上での設計が大事
(理由)先生が話すことを録画、それを生徒が自由な時間 もしくは指定時間に閲覧、となっても、今までの教育とは変わらない
- ZOOMをほぼ全教員が使うことになるので、ある意味教員へのFDになっている。個人的にはグループ活動をZOOMでできることを知って興味深かった
- リモート環境が充実し、地域や時間にかかわらず教育を受けられるチャンスが生まれる
- 場所に依存しない学びを提供可能（家庭でのITリテラシーが向上している／デバイスも家庭で準備される傾向）、学校になじめなかった、お子さんに学びの機会を取れそう
- 遠隔授業コンテンツが蓄積することにより、オンデマンドの個別最適化学習に抵抗がなくなるかもしれない
- プログラミング教育の必要性に関する社会の認知度
- ICTの活用促進
- ICT活用による授業活性化
- 遠隔授業の意義と人が実際に出会って学ぶことの意義の再確認
- 学校の一人一台P Cの整備が加速する。入学祝にランドセルからタブレット型P Cに移行するチャンス
- 海外等も含めた遠隔地とのつながりを活用した授業
- インターネットを使った学びの機会が増えるので、学習ソフトやネット授業などオンラインを活用した学習の需要がこれから増えてくるのではないか

■新たな教育のチャンスと思われるもの

オンライン授業関連（つづき）

- ICTを使った遠隔授業を行うことで、
 - ・その科目を得意とする先生が学年全員に教えることができるため、教育の質の向上につながる
 - ・講義に動画コンテンツや、e-Learningを使うことで、教員の負担軽減が可能
 - ・算数や数学ではAIを活用した教育システムによって個別最適化された学習プログラム提供が可能、学力向上も図れている
- 休校が小学校から大学まで続くことで、オンライン授業が急に進められることになったが、それが収束した後の教育のあり方を大きく見直すことが可能
- デジタル芸術配信に関して、教員側が新たな価値を見だし、その内容を学生に指導していくということは重要になってくる
- オンライン授業の整備、ICTの充実
- 生徒・教職員双方のICTリテラシーの向上

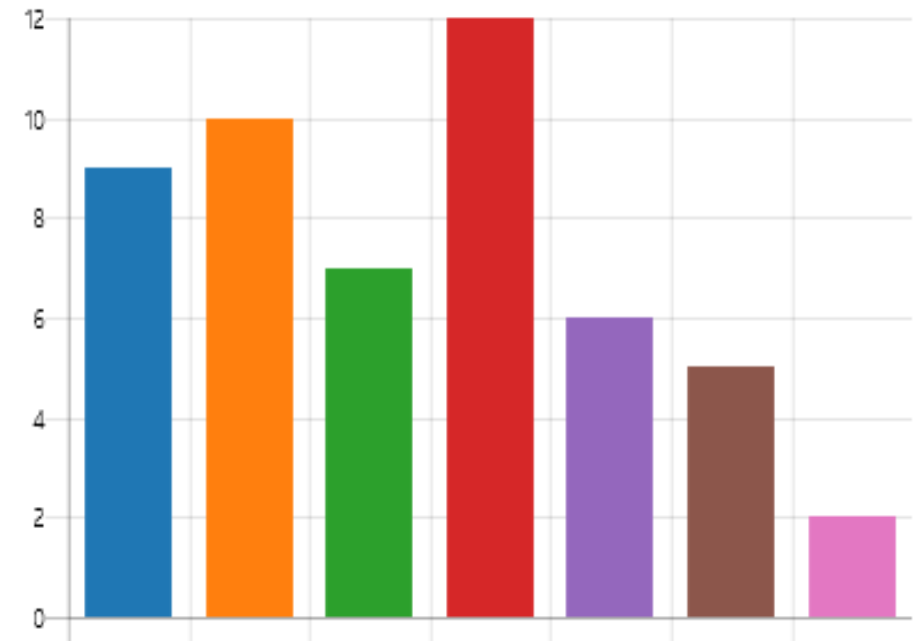
その他

- 9月に新学期、入学以外なし
- 一人の時間が増える(家族で暮らしていても濃厚接触を避ける前提)ので今までの自分自身を振り替えることができる

■新型コロナウイルス感染拡大中に実施してもらいたいこと

- STEAM教育の事例紹介用のLMSの開発
- STEAM教育カリキュラムの構築方法に関するオンライン研究会
- STEAM教育の評価方法に関するオンライン研究会
- STEAM教育の授業設計に関するオンライン研究会
- オンライン授業の方法・Tips紹介に関するオンライン研究会
- オンラインによる、生徒・学生の心のケアに関するオンライン研究会
- その他

9
10
7
12
6
5
2



その他

- 考古学と美術とか、社会学と美術、現場と研究者と産業
- 現在が既にその状態ですが、アフターコロナではより一層、創造性と芸術性が求められる時代になります。そうした中で、STEAMのArtに求められる可能性や意義は非常に大きなものになると考えられますので、Artに関する研究会はいち早く進めるべきだろうと思います

■新型コロナウイルス感染拡大終了後実施してもらいたいこと

● 新型コロナウイルス感染症終結後の、芸術の授業の可能性の検討	1 2
● 新型コロナウイルス感染症感染終結後の、学校の学びのあり方に関する意見交換会	1 2
● 新型コロナウイルス感染症終結後の、未来を一緒に考えるオンライン集会	9
● STEAM教育を実施・推進する、STEAM教育人材の育成方法に関する研究会	1 0
● STEAM教育を研究する上での、研究シーズマッチングの機会創出	8
● その他	1

